



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会 議：国際海事機関（IMO）第 11 回船舶設備小委員会（SSE 11）

開催場所：国際海事機関（IMO：英国ロンドン）及びオンラインのハイブリッド

会議期間：2025 年 2 月 24 日～2 月 28 日

海技研からの出席者：

現地参加 粉原 直人：知識・データシステム系シミュレータ研究グループ 上席研究員

太田 進：研究特命主管（日本船舶技術研究協会審議役）

概要：船舶設備小委員会（SSE）は、新造旅客船及び貨物船への自己復原式又は両面式救命いかだの搭載義務化のための SOLAS 条約附属書第 III 章及び LSA コードの改正案の検討を開始することに合意した。

主な貢献

粉原及び太田は、各種救命設備規則に係る各種議題の審議を担当し、その作業部会（WG）にも参画し、審議に貢献した。

主な審議結果

当所職員が担当した議題の主な審議結果は以下の通りである。他の事項及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

1 生存艇の換気のための新要件の策定

第 107 回海上安全委員会（MSC 107）において全閉囲型救命艇の換気要件に係る国際救命設備規則（LSA コード）の改正が採択された。小委員会は今次会合において部分閉囲型救命艇の換気要件について審議を行い、多数がその必要性を支持したことから会期間通信部会（CG）において LSA コードおよび関連文書の改正案を検討することに合意した。一方、救命いかだの換気要件に関しては今次会合への提案文書の提出がなかったことから、前回会合（SSE 10）の決定に従い検討を終了することに合意した。

2 自由降下式救命艇の作動試験で使用される設備の設計及びプロトタイプ試験要件の策定

MSC 101 において、自由降下式救命艇を進水させることなく作動試験を行うための装置（模擬進水装置）の設計及びプロトタイプ試験基準の策定を行う作業計画が採択された。小委員会は今次会合において、前回会合後に設置された CG の検討結果に基づき審議を行い、LSA コード及び関連文書の改正案に合意した。

3 海上における人命の安全のための国際条約（SOLAS 条約）附属書第 III 章及び LSA コードの全面的な見直し

MSC 98 において、SOLAS 条約附属書第 III 章及び LSA コードの救命設備要件の一貫性の確保と体系的な構造化を目的として、目標指向型基準（GBS）のアプローチで救命設備に係わる義務的要件を全面的に見直す作業計画が提案された。小委員会は今次会合において、前回会合後に設置



された CG の検討結果に基づき機能要件と期待性能の一部を検討のうえ、CG を再設置し、機能要件と期待性能について引き続き検討することに合意した。

4 新造船への自己復原式又は両面式救命いかだの要求のための SOLAS 条約附属書第 III 章及び LSA コード第 IV 章の改正

自己復原式または両面式救命いかだについては、現在 RORO 旅客船のみに搭載が義務づけられている。前回会合において他船種の新造船への適用拡大を求める提案があったことを受け、小委員会は今次会合において審議を行い、定員 12 人以下の救命いかだを除き、全ての新造船への自己復原式または両面式救命いかだの搭載義務化に合意し、CG において SOLAS 条約附属書第 III 章及び LSA コード第 IV 章の改正案を検討することに合意した。

5 次回会合

次回の船舶設備小委員会（SSE 12）は 2026 年 3 月 9 日から 13 日まで（暫定）、ロンドンの IMO 本部で開催される予定である。